

残された記憶を継ぎ

平和をつなぐー



昭和20年8月15日ー
この日、太平洋戦争が終結しました。

あれから70年のときが経ち、多くの尊い命が奪われた戦争の記憶も、どこか薄れつつあるのではないのでしょうか。

しかし、忘れてはいけません。今の平和な日常は、多くの犠牲のうえにあるということを。

私たちにできることは、記憶をつなぐこと。

戦争の悲惨さを後世に伝え、記憶が消え去ることのないよう受け継いでいくこと。

今回の特集では、戦争体験者の話を聞いて、平和について考えます。



わたしの好きな。
おうら祭り。
愛され続けて、**25**周年

毎年、おうら祭り実行委員会では、町民参加型の祭りにこだわっています。「記録より記憶に残る祭り」を目指しているからです。故郷のなつかしい記憶に残る夏祭り。ご家族でも、友達でも、そして恋人でも…その一ページを刻みに足を運んでください。今年の夏、ラストを飾る思い出をぜひ「おうら祭り」で。

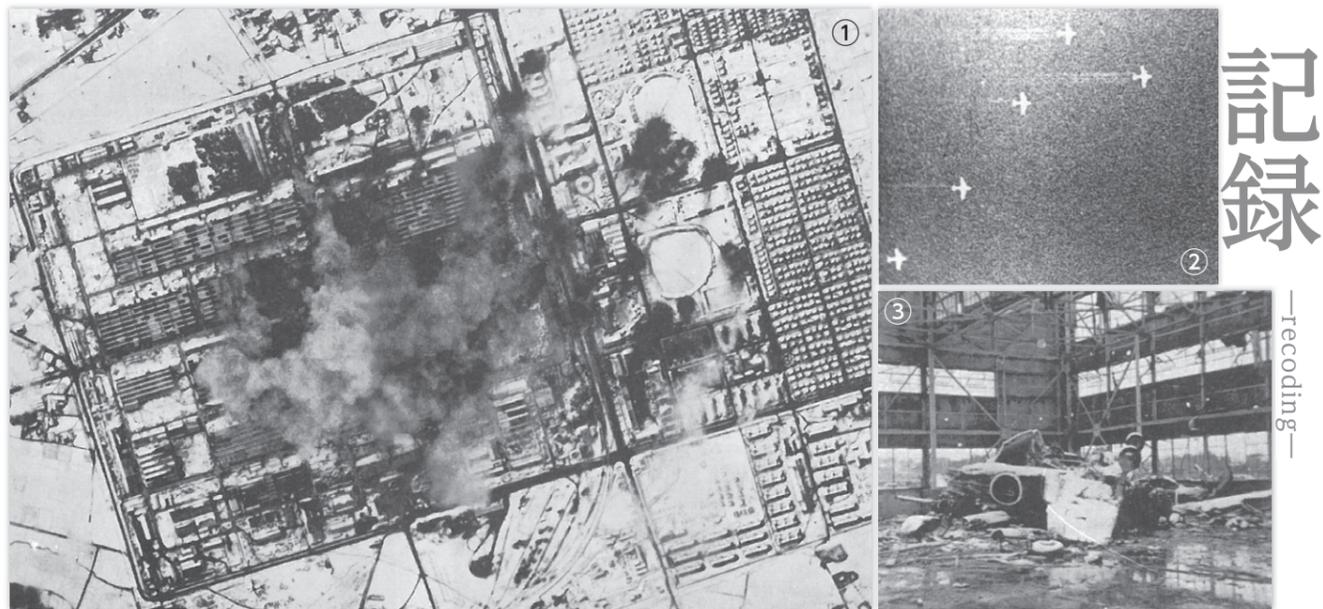


第25回 おうら祭り ORA Festival 2015 主催 おうら祭り実行委員会
日時 **8月23日** 小雨決行 午前**10時**～午後**8時45分**
会場 シンボルタワー周辺 問合せ先 役場商工振興課☎47-5026 町商工会☎88-0082

最後は、やっぱり。
8,000発の打ち上げ花火
今年の日玉は、どとう怒濤の一千連発
時間 午後**8時**～**8時45分**
※荒天の場合は、花火のみ8月24日(月)午後7時～7時45分に変更して打ち上げます。



※詳しい内容は、8月中に全戸配布される「おうら祭りプログラム」をご覧ください。



①爆撃を受ける中島飛行機小泉製作所 ②上空を飛ぶB29爆撃機編成 ③爆撃を受け破壊された組立て途中の飛行機
【資料提供「レンズが見た大泉70年」(大泉町発行)】

記録

—recording—

残された記憶 体験者の記憶

実際に戦争を体験した
2人の声を聞いて、
あなたの記憶としてください。

家族がいたから 自分との戦いには勝った



宮田 作造さん (西ノ根宮内中島・24区)

●1916年生まれ。来年、御年100歳。元陸軍兵第14師団に所属。輸送作戦に出撃した戦艦「大和」に乗艦経験がある。

いざ、兵隊へ

昭和10年、20歳のとき徴兵検査を受けました。私は体が小さい方だったので丙種での合格でした。なので、軍に召集されるとは思ってもみなかったです。

昭和17年、いよいよ入隊のときがきました。私は大日本帝国陸軍第14師団(司令官は宇都宮)に入隊しました。早く出撃して戦争なんて勝って終わらせる、という気持ちの毎日でした。

いざ、出撃へ

昭和18年、いよいよ出撃のときが近づきました。私はトラック島に向けて同年12月20日に戦艦「大和」で横須賀港を出発。あの時は、日本に残した妻と子ども2人のために絶対生きて帰ってくるぞ、という気持ちでした。それから5日間、トラック島まであと少しのところ、



戦場での事実証明書と善行證書

敵潜水艦の雷撃を受けました。「ガガン」と音がして、船が少しばかり傾き、艦内放送で「海軍は戦闘準備、陸軍は待機」と流れました。まさか世界最強と言われた戦艦「大和」に、魚雷が直撃するとは思っていませんでした。しかし、さすがは戦艦「大和」。沈没は免れました。

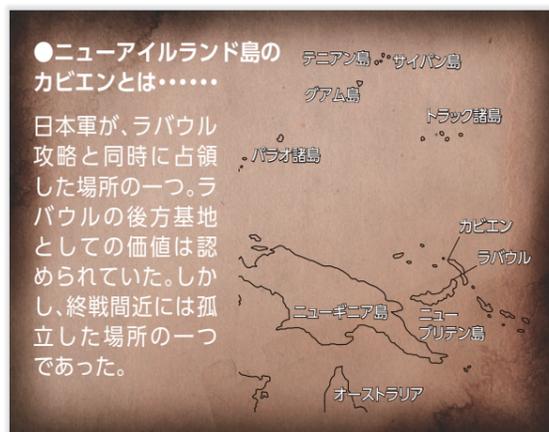
飢えとの戦い

その後、ニューアイルランド島のカビエンに行きました。ここは戦場から少し離れていて、比較的静かなところだったと思います。しかし、食料を補給する船は一向に来ませんでした。そして、飢えとの戦いが始まりました。

寝る所もない、食べ物もない、とにかく大変でした。私は残してきた家族のことを考え、

記憶

—recollection—



●ニューアイルランド島のカビエンとは……
日本軍が、ラバウル攻略と同時に占領した場所の一つ。ラバウルの後方基地としての価値は認められていた。しかし、終戦間近には孤立した場所の一つであった。

え、必死に耐えました。そして、終戦を迎えました。本当に負けたのが信じられませんでした。それから約半年後の昭和21年3月に帰国。家族に会えたときは本当にうれしかったです。

戦争に思う

戦争は国と国とのけんか。けんかなんてものはするものではないですよ。話し合いで解決するべきです。皆さんもけんかのない世界を作ってください。

本当は学校に行きたい。けど家族のために

あの頃は、とても貧しくて本当につらかったです。戦争が始まってすぐに、病気で父を亡くしました。当時小学生だった私は、お金を稼ぐために奉公しに行ったり、田植えや桑摘みの仕事をしたり、行ったりしていました。本当は学校に行つて勉強がしたかったけど、家族のために頑張りました。

その後、18歳のときに大泉町の中島飛行機小泉製作所に行くことになりました。オンボロでつぎはぎの自転車をこいで毎日通いました。行き帰りは命がけ。警戒警報が鳴るたびに、かしの木の間に隠れながらこぎました。怖くて怖くて、必死に自転車をこいで通っていました。

恐怖の空襲警報が鳴った

中島飛行機小泉製作所は軍の飛行機を造る場所でしたから、標的になりやすいところ。不安の中での作業の日々でし

たが、利根川にすくいい防空壕があったので、少し安心していました。昭和20年2月25日、空襲警報が鳴りました。

私は、利根川の防空壕まで逃げられなかった。近くの竹やぶの中に逃げ込み、死ぬような思いで竹にしがみつきました。爆弾の轟音、大地震のような地響き、竹にしがみついていると立っていられないくらいの衝撃でした。怖くて怖くて、地獄のような時間でした。

悔しかった、終戦

空襲後も、飛行機の生産は続きました。それから日本中に空襲が起きていくことを知り、恐怖心が募りました。その後、利根川の防空壕にも爆弾が直撃。その日、私は運良く家に帰っていたので無事生還。その話を聞いたときは、体が震えました。

昭和20年8月15日、終戦を工場で聞いたときは信じられませんでした。

すごく悔しかったです。

戦争が終わり

戦争は絶対にしてはいけません。あの時の地獄のような日々は絶対に起こしてはならないです。今の極楽がいつまでも続くようにと願います。

内村 ツヤさん (石打・20区)

●1926年生まれ。戦時中は、妹たちを学校に行かせたい、との思いで中島飛行機小泉製作所で働いていた。

爆弾が怖くて、怖くて でも働かないといけない



—recollection—

記憶

今年も開催 第32回 邑楽町平和展

関連情報
—Information—

今年で32回を数える邑楽町平和展。今年も開催します。
戦後70年を迎える今年は、パネル展示として太平洋戦争関連の写真や年表を掲示します。
この機会に親子で来場し、戦争のことについて考えてみませんか。

期日 8月29日(土)

時間 午前10時～午後3時

会場 町立図書館

※パネル展示は、8月18日(土)から。

(図書館開館日の午前9時～午後6時になります)

内容 パネル展示(東京大空襲の写真など)、
「すいとん」など戦時食の無料配布、アニメ上映会、スタンプラリー(雨天中止)、風船飛ばし、読み聞かせ、模擬店など

問合せ 平和展実行委員会事務局

役場都市建設課(吉田) ☎88-5511

戦没者追悼式

町では、戦没者追悼式を開催します。
遺族や関係者はご参加ください。

▼期日 9月24日(土)

▼時間 午前10時～

▼会場 邑楽町公民館

▼問合せ 役場健康福祉課 ☎47-5024

第10回特別弔慰金

▼対象者 戦没者などの死亡当時の遺族
(基準日に、公務扶助料や遺族年金などを
受ける人がいない場合)

※優先順位は次の通りです。

①基準日までに「戦傷病者戦没者遺族等
援護法」による弔慰金の受給権を取得し
た人

②戦没者などの子

③戦没者などの死亡時に生計を共にし
ていた父母、孫、祖父母、兄弟姉妹(婚姻や
養子縁組により、基準日で氏が変わって
いる人は除く)

④③以外の父母、孫、祖父母、兄弟姉妹

⑤①～④以外の3親等内の親族(戦没者
などの死亡時まで引き続き1年以上生計
を共にしていた人に限る)

※基準日は平成27年4月1日。

▼請求期限 平成30年4月2日(日)

▼請求先 住所地の市区町村役場

▼問合せ 県国保課 ☎027-222-5024
役場健康福祉課 ☎47-5024

平和をつなぐ そして、次の世代へ

記憶は新しい世代へと受け継ぎ、
平和な未来へとつなぐ記憶となります。

平和への思い



長谷川実紀ちゃんは8月15日生まれ。
長谷川さん親子にインタビューしました

長谷川 恵美さん 実紀ちゃん 拓紀さん
(朝土・12区)

「戦争って聞くとどんなイメージがありますか？」

恵美さん 親から聞いた話の印象が強いです。生活が大変だったとか食べ物なかったというイメージです。

拓紀さん この辺でもたにしやすずめを食べたと聞いたことがありますが。今では想像できない時代ですね。

「今、平和だなんて感じることは？」

拓紀さん 子どもの成長が今一番の幸せであり、平和って感じることでいい。今は食べ物も豊かになり、好きなものを食べられるので、それだけでも平和を感じます。

「平和な未来を創るためにはどんなことが大事だと思いますか？」

拓紀さん 相手を理解し、想いやる心を持つことだと思います。なので、実紀もそういった気持ちを持った子になってくれればと思います。

しかし、個人同士のけんかはお互いの想いを理解し合えることで「ごめんね」ができますが、国同士の場合は、そこが少し異なります。人々の想いと別に、自国のために資源や食糧を奪い合うのが戦争。

私たちも含めこれからの世代は、争いの種をなくすための努力が大切です。例えば、資源や食糧を大切にすることだと思えます。

恵美さん 平和な未来の第一歩は家庭から作ることが出来ると思います。そのためには、親が子どもの見本になるような行動を取ることが大切です。そして、その積み重ねこそが平和な未来につながっていくと思います。

平和をつなぐ活動へ

あの悲劇を忘れぬよう
平和をつなぐ活動を
いつまでも続けたい



平和展開催に向けて
思いを語る
邑楽町平和展実行委員会
委員長 鈴木 隆広さん

戦争の悲劇を二度と繰り返さないため、戦争を知らない世代に語り継ぐことを目的とした邑楽町平和展。今年で32回目を迎えます。

今年の平和展は太平洋戦争をテーマとした展示会、戦時中の食事を再現した戦時食の無料配布、戦時中の遊び体験、戦争をテーマとした映画上映などを行います。

また、東日本大震災を受け、広く平和を願う意を受け、

平和

— Report —

取材を終えて

今回のマンスリーピックアップでは、戦後70年に関連し「太平洋戦争」を取り上げました。

戦争を体験した人は「戦争なんてするもんじゃない」と口にします。もちろん、体験したことのない人たちは同じはず。

ただ、体験者たちの言葉には重みがあります。それはきつと、爆弾の音、焦げた臭い、人や物が壊れていく光景など、計り知れないくらいの恐怖の体験があったからこそ。

過去の歴史を変えることはできませんが、平和な未来を創ることはできます。体験者の記憶から、争いの悲惨さを学び、一人一人が考え、行動することが大切です。

日本では平和な時代といわれます。しかし、けんかやいじめなど小さな争いは日々起こっています。

まずは、小さな争いからなくしていくこと。そうした積み重ねが平和をつなぐ小さな一歩になるのかもしれない。

残された記憶を継ぎ
平和をつなぐ

参考文献

NHK「戦争証言」プロジェクト編(2015)『証言記録 市民たちの戦争 ①銃後の動員』吉田裕・一ノ瀬俊也・佐々木啓監修、大月書店。
吉田一彦(2007)『米側資料が明かす ラバウルの真実』ビジネス社。
私の八月一五日編集委員会編『戦争体験手記「そのころの子供たち」』(第四集)邑楽町。